

オオシオカラトンボ

Orthetrum triangulare melania



＜生物の写真＞

＜環境写真＞

分類群	魚類	貝類・甲殻類		爬虫類・両生類		昆虫類			
種の特Ⓕ性	絶滅危惧種	危急種		希少種		外来種		指標種	
分布地域 (農政局単位)	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州	沖縄

【分布】

北海道、本州、四国、九州に分布し、北海道では産地が限られる。離島では粟島、佐渡島、伊豆諸島、淡路島、瀬戸内の家島諸島、隠岐、舌岐、対馬、五島列島、天草諸島、甕島諸島、および南西諸島の主要な島などに分布する。

【名前の由来】

シオカラトンボよりやや大きいことから、大きい塩辛トンボの意味。

【形態的な特徴】

体長 50～57mm（腹長 33～37mm、後翅長 37～44mm）ほどで、雌雄はほぼ同じ大きさ。シオカラトンボと同じような色斑をもち、これをひと回り大きくしたような太めのトンボ。未成熟のうちは雌雄とも黄褐色の地に黒色斑があるが、雄は成熟すると翅胸部と腹部が蒼白色の粉で覆われる。また、後翅の基部に黒褐色をした顕著な斑紋がある（但し、トカラ列島から沖縄本島産の雌を除く）。

幼虫は、褐色ないし暗褐色をした体長 18～23mm（頭幅 5～6mm）ほどのヤゴである。

【生態的な特徴】

成虫は5月から9月頃に見られる。幼虫はおもに夜間、[挺水植物](#)の茎や葉裏、水面から突出した杭、護岸壁などに[定](#)[位](#)して羽化する。未成熟個体は羽化水域から近い林で生活をする。成熟した雄は水辺の[挺水植物](#)などに止まって縄張りを張る。交尾後、木陰で植物の生い茂る浅い水域に、雌は単独で[連続打水産卵](#)をする。しばしば雄がその上空でホバリングしながら産卵を見守ることがある。

【生息環境】

おもに平地から低山地の樹林が縁にある池沼や湿地、水田、緩やかな流れの溝川などに生息する。成虫はやや薄暗い水域を好む性質が強く、明るく広々とした水域を好むシオカラトンボとは明確にすみ分けている。幼虫は、植物性沈積物の陰に潜んだり、柔らかい泥の中に浅く潜って生活している。

【生息状況】

北海道や沖縄では産地が限定されるが、それ以外では全国的に普遍的に見られる。しかし、シオカラトンボよりは生息地が限られ、安定した流れのある水路や日かげとなる林縁などが必要である。

【生態系保全のための留意点】

本種の好む谷地の放棄水田などは、現時点ではトンボの生息環境として適した場所となっている。しかし、いずれは自然の遷移により草地化したり宅地開発により環境が著しく変化する可能性があり、長期的に安定したトンボの生息環境が維持されるとはいえない。したがって、現在生息しているからといってそのまま放置するのではなく、今後もこのような環境が維持されるような管理が必要となる。

【備考】

トカラ列島以南の雌の色斑には、顕著な地理的変異が見られる。